

## 「畜産物消費者モニター第15回アンケート調査」結果概要

令和03年3月  
(一社)大阪府畜産会

### I 「第15回アンケート調査」の実施方法

○調査時期	令和3年1月
○調査方法	郵送・メール・FAX方式による配布・回答
○調査対象者	(一社)大阪府畜産会「畜産物消費者モニター」217人
○調査回答者	81人(調査回収率 37.2%)
○調査主要課題	大阪の畜産業と農家についての認知度と購入状況・イメージなどの消費者の考えを探る

### II 回答の属性

(単位:81人、37.2%)

	合計	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明
男	15	0	7	20	13	17	7	1
女	66	1	5	3	0	4	2	1
合計	81	1	12	23	13	21	9	2
割合	(100%)	(1.2%)	(14.8%)	(28.4%)	(16%)	(25.9%)	(11.1%)	(2.5%)

注:また、回答総数は81名であり、年齢層の区分に回答がなかった2件がありました。

今回のアンケートにあたり、下記の2案件を調査事項とした。

#### ○新型コロナウイルスの影響によるモニターの畜産消費動向の変化について

新型コロナウイルス感染拡大に伴う、外出自粛や、飲食店への時短・休業要請、大きくは輸出の停滞などの要因により農林水産物、特に和牛肉については在庫が増加し卸売価格の低下が問題となった。対策として官民間わず、消費拡大に係るキャンペーンや補助金の交付・支援事業が行われたが、これらについてモニター方が知っていたか、また食生活にどんな影響があったのかを確認した。

#### ○高病原性鳥インフルエンザや豚熱について

令和2年11月5日の香川県をはじめとして、全国の家きん農家(令和3年3月現在18府県52件)で鳥インフルエンザが発生した。

また豚熱(旧・豚コレラ)の発生も続いており、令和2年12月時点で、23都府県で野生いのししからの豚熱の陽性事例の確認と10府県にまたがる養豚場にて殺処分が発生した。

イメージの問題から名称が変更になった豚熱や、鳥インフルエンザ発生について知っ

ていたか？ また家畜疾病発生のたびに問題となりがちな風評被害について、モニター方の意識調査と市販で購入される畜産物は安全である事の伝達も踏まえて設問とした。以下は簡単ですが、取りまとめの内容とアンケートの結果を報告します。

### Ⅲ 調査結果の概要

#### ○新型コロナウイルスの影響によるモニターの畜産消費動向の変化について

##### ① 感染拡大により外食の利用回数は変わりましたか？

- 1 減少した 52名 (62.6%)      2 変わらない 13名 (15.6%)
- 3 増加した 0名 (0%)      4 テイクアウト・出前等に変更 6名 (7.2%)
- 5 全く利用しなくなった 12名 (14.4%)

##### ② コロナ禍の外出の自粛や飲食店の利用の減少などの要因により、家庭で購入される畜産物(牛・豚・鶏・玉子・その他)の購入に変化はありましたか？

- 1 増えた 41名 (50.6%)    2 変わらない 40名 (49.4%)    3 減った 0名 (0%)

##### ③ 前述の質問で購入が増えた方に伺います。 どの畜産物でしょうか？ (複数回答可)

- 1 牛肉が増加 (国産) 24名 (21.2%)    2 牛肉が増加 (輸入) 5名 (4.4%)
- 3 豚肉が増加 (国産) 32名 (28.3%)    4 豚肉が増加 (輸入) 3名 (2.7%)
- 5 鶏肉が増加 (国産) 27名 (23.9%)    6 鶏肉が増加 (輸入) 2名 (1.7%)
- 7 玉子が増加 20名 (17.7%)            8 その他の畜産物が増加 0名 (0%)

#### ※設問①②③について

上記①-③の設問で、外食に費やしていた食費が家庭に流れ、国産食肉の需要が伸びた事が分かる。 ③の結果が国産食肉の増加に偏ったのは、モニター方が比較的の高い年齢層にあり、かつ畜産についても意識が高い人が多い事が要因と考えられる。

##### ④ 精肉をネットや通販での購入 (スマホ・PC を使い自宅で発注し、宅配してもらう事) について

- 1 増えた 7名 (8.53%)      2 変わらない 17名 (20.7%)
- 3 減った 0名 (0%)      4 ネットや通販で購入しない 50名 (61%)
- 5 抵抗がある 8名 (0.98%) (理由の記述)

生協で購入しています
鮮度がどうか心配

現物を確認してからの方が安心
現物を見てないで購入した時、期待外れの物が届くかもしれないので不安です。 脂身が苦手なのですが、思ったより脂身が多い物が届いた時、食べられないので無駄になります。
注文と受けとりがめんどうだから。
パックの中身を確認出来ない
実際に届くお肉がほんとうに見本と同じかわからないので。
生協のカatalogで購入

#### ※設問④について

コロナ禍で不要の外出を避ける、大量にまとめ買いできる利便性などから、通販やネットでの購入が増えていると聞くが、結果として当モニター方の約 7 割の方がネットで購入をされていない。 既述で分かるが、直接品物を見なければ不安がある事が分かる。 ただ、残りの 3 割の方は利用されており、8.53%も増加している。

ネット販売も公的機関や生産者直売なども増えており、消費者の信頼できる販売先が広がるにつれ、今後の利用率も増加すると考えられる。

#### ⑤ 在庫・価格対策として、ブランド和牛の値下げやプレゼント、ふるさと納税などの企画が取組まれましたが、利用されたことはありますか？（複数回答可）

- |                                  |                         |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1 安価で購入した 9名 (9.9%)              | 2 プレゼントに応募 11名 (12.1%)  |
| 3 Goto トラベル・イートを利用した 11名 (12.1%) |                         |
| 4 ふるさと納税を利用 14名 (15.4%)          | 5 取組を知らなかった 28名 (30.8%) |
| 7 特に関心はない 18名 (19.8%)            |                         |

#### ※設問⑤について

上記のブランド牛のプレゼントや値下げ販売などの申込はPC やスマホなどの端末での申込がほとんどであったためか、取組を知らなかった方が 30.8%おられた。 反対に、①～④の購入や利用された方の総計は 49.5%となった。 各県の JA や農林水産省も上記の様な消費拡大の取組や宣伝をおこなった影響もあり、普段購入しづらいブランド和牛が、消費者の食卓にならんだ話題や画像が各メディアで取り上げられていた。

#### ⑥ 国産牛肉やブランド和牛が全国の小中学校の学校給食に提供がされている事をご存知でしたか？

- |                                   |                      |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1 知っていた 25名 (31.6%)               | 2 知らなかった 27名 (34.2%) |
| 3 聞いてはいたが具体的な事は分からない。 27名 (34.2%) |                      |

- ⑦ 上記の学校給食提供に合わせて、府内の畜産農家の紹介や飼育方法等についての授業が行われました。 在学中のご家族（お子さんや・お孫さん）から、国産牛肉の給食の味や授業の感想を聞かれましたか？

もしお聞きの場合はどのような感想だったか、教えてください？

授業は聞いていないが、給食センターの人に聞いた
孫が神戸市立の小学校に通っており、給食に神戸ビーフが出たと聞きました。うれしかった様です。
かなり好評であったと聞きます。おいしいのはもちろん、地元の食材などを有効活用していることで食育にもつなげているようです。
給食で近江牛が出ましたが肉の味を感じとれるほどの量ではなく大きな反応はなかった。（使われている肉について宣伝はありましたが）
テレビでのニュースで知った
神戸なので、孫から神戸牛の給食だったと聞きました。いや、ニュースで知っていて大人のほうから聞いたというのが本当です。小学2年生なので「美味しかったよ」という反応でした

#### ※設問⑥・⑦について

国産牛肉の在庫解消や消費促進の対策として、国産牛肉（ブランド和牛）が全国の小中学校（公立・私立）の学校給食に提供されている。（給食を支給している小中学校のみ） 令和2年5月から令和3年3月迄で、複数回の提供が行われた。

ブランド牛の産地では子供達の食育もかねて、設定価格以上の品質が提供されたところもあり、メディアなどで大きく取りあげられ、放送では「美味しい」と喜ぶ子供達の画像が大きなインパクトとなっていた。

この取組により、活用される牛肉は全国で3,000 トンを予定しており、各地で一定の成果があがっている。

⑥・⑦設問はモニターの方への和牛肉の在庫過多が深刻な問題である事、対策としてこのような取組が有る事の紹介を兼ねている。 また子供達が授業を通じて、地場産の和牛・ブランド牛を知る事、味わう事は将来的な需要開拓にも重要であり、その感想が生産者に伝わればと考え記述とした。

## ○高病原性鳥インフルエンザや豚熱について

- ⑧ 豚熱の発生と呼び名について、以前は豚コレラと呼ばれていましたが、現在は豚熱 (CSF) と変わったことをご存知でしたか？
- 1 知っていた 16名 (19.5%)
  - 2 豚コレラ、豚熱、CSFは、それぞれ違うものと思っていた 15名 (18.3%)
  - 3 名称が変更されたことが知らなかった 51名 (62.1%)

### ※設問⑧について

ブタの伝染病の呼称については、短期間の間に、豚コレラ→CSF→豚熱という順番で改称された。

当初「豚コレラ」と法律上の日本語名称で呼ばれていたが、人のコレラと紛らわしく風評被害の恐れがあることから、国際的に通用している「CSF (クラシカル・スワイン・フィーバー)」の呼称を使用するが、アルファベットの略称では法律上の名称とするのは困難との見解から、法律の改正施行により「豚熱」に変更となった。

あわせて、アジアで感染が広がるアフリカ豚コレラ (ASF) は「アフリカ豚熱」と変更された。ただ農水省は「基本は国際的に通用している『CSF』や『ASF』を使って定着を目指したい」として、法律の規定とは異なる名称を使い続ける方針である。

非常に誤解されやすい名前と経緯ではあるが、報道などでは、和名が先の「豚熱 (CSF)」のような表記が一般化しそうである。

- ⑨ 大阪府でも令和 2 年 6 月より豚熱ワクチンの接種が開始された事をご存知でしたか？
- 1 知っていた 10名 (12.5%)
  - 2 知らなかった 70名 (87.5%)
- ⑩ 鳥インフルエンザと豚熱は、人には感染しないといわれていますが、鶏肉・鶏卵・豚肉の購入に影響はありますか？
- 1 影響はない 68名 (85%)
  - 2 購入を控える 12名 (15%)
  - 3 全く購入しない 0名 (0%)
- ⑪ 購入を控える・購入しない方にお尋ねします。該当するものはどれですか (複数回答可)
- 1 鶏肉 (発生県産) 9名 (29%)
  - 2 鶏肉 (国内産は全て) 1名 (1%)
  - 3 鶏卵 (発生県産) 9名 (29%)
  - 4 鶏卵 (国内産全て) 1名 (1%)
  - 5 豚肉 (発生県産) 10名 (32.3%)
  - 6 豚肉 (国内産は全て) 1名 (1%)

※設問⑨⑩⑪について

モニターの方への広報を意識した設問でした。

⑨の設問の通り、昨年大阪でも豚ワクチン接種の報道が流れましたが、「ワクチンを摂取した豚肉を食べても大丈夫なのか？」など様々な疑問や不安があったようです。

安全と発表されても、風評や気分的な問題は、簡単には払拭されませんが、モニターの方に正確な情報を知って頂くために、このあとがきで豚熱と鳥インフルエンザについて、内閣府食品安全委員会の見解を抜粋しました。

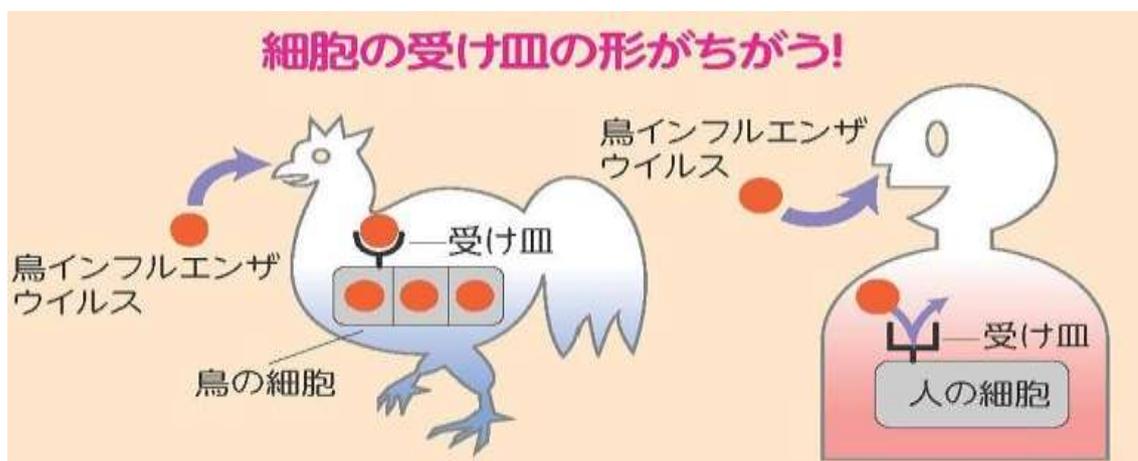
○ 豚熱について

豚熱は、豚、いのししの病気であり、人に感染することはありません。  
感染豚の肉が市場に出回ることではなく、仮に豚熱に感染した豚の肉や内臓を食べても人体に影響はありません。

○ 鳥インフルエンザについて（豚熱と比べ諸説が多いので、詳しく抜粋します）

食品安全委員会は「我が国の現状において、家きんの肉や卵を食べることにより、ヒトが鳥インフルエンザウイルスに感染する可能性はない。」との見識である。

- (1) 鳥インフルエンザウイルスがヒトに感染するためには、ヒトの細胞表面の受容体<sup>(注1)</sup>に結合しなくてはなりません。私達ヒトの受容体はヒト型であり、トリ型とは異なるとされています。（注1）受容体とは、ウイルスがヒトや動物に感染する際に最初に結合する細胞表面の分子であり、大きく分けて2種類（ヒト型とトリ型）があります。  
受容体はウイルスの受け皿と考えましょう。
- (2) 鳥インフルエンザウイルスは酸に弱く、ヒトの体内で胃酸などの消化液によりウイルスが死滅する（感染性が失われる）されると考えています。



鶏肉や鶏卵を食べて、人が感染することは世界的に報告されていません。

#### **【参考】人への感染事例について**

一般的に鳥インフルエンザウイルスが人に感染することは極めてまれです。ウイルスは感染した鳥の体液や排泄物に大量に含まれているため、病気や死亡した鳥に直接接触したり、解体や調理、羽をむしるなど濃厚に接触（ウイルスへの大量暴露）した場合には、まれに感染することがあります。したがって、そのような接触をしない限り、鳥インフルエンザに感染する心配はありません。また、高病原性鳥インフルエンザが発生した農場の近くに住んでいたり、近くを通ったりすることで感染することはありません。

#### **【参考】発生時の家畜防疫上の措置や日々の殺菌・消毒等の衛生管理措置**

- ・我が国においては、鳥インフルエンザが発生した場合には、感染鶏や同一農場の鶏は全て殺処分されるなどの家畜防疫上の措置が行われるため、本ウイルスに感染した鶏等が市場に出回ることはありません。
- ・私達が普段口にしてしている鶏卵は公衆衛生の観点から殺菌・消毒等の衛生管理が実施されており、洗卵・消毒されています。

#### **【参考】鶏肉に関する一般的な注意**

- ・鶏肉は食鳥処理場での生体検査が実施されているため、病気にかかっている疑いのある鶏は食用にされません。